

2021年3月31日

徳島大学長 野地澄晴殿

徳島大学病院長 香美祥二殿

徳島大学病院看護部長 高開登茂子 殿

徳島大学教職員労働組合
中央執行委員長 今井 晋哉

新型コロナウイルス感染症対応一時金の配分についての意見

日頃より徳島大学病院の充実発展のためにご尽力されていることに敬意を表します。また、組合活動へのご理解と良好な関係の維持にも感謝しております。

さてこのたび、病院では「新型コロナウイルス感染症患者等入院受入医療機関緊急支援事業」により、新型コロナウイルス感染症に対応している病院職員に対して一時金を支給したと伺っております。そして、支給対象とそれぞれの金額は、

①日常業務として新型コロナウイルス感染症患者対応を行っている者：日常業務としてコロナ患者と直接対応、医療行為に従事する医師、看護師：50万円。

②新型コロナウイルス感染症患者対応を行っている者：患者と間接対応（検査業務等）する医療技術職員：10万円。

③業務として患者対応を行う職員：受付、トリアージ等を行う職員、看護助手等：1万5千円。

であることを伺いました。

日々、精神的、肉体的に多大な負担を強いられながらも、果敢に新型コロナウイルス感染症に対応している病院職員に対して報いることは喜ばしいことと考えておりますが、現場の職員より、その配分についてはいささか残念な点があるとの声がありました。一言でいうと、①と、②・③との差が大きすぎるという点です。とくに③が少なすぎるとの声が多かったです。

具体的には、「HCUの医師・看護師への50万円や、間接対応する医療技術職員への10万円に対して、ICUの医師・看護師への1万5千円は少なすぎる」との声が多くありました。ICU（集中治療室）は③に該当しますが、HCUが新型コロナウイルス感染症対応となったために、以前までHCUが受け入れていたレベルの患者を受け入れている結果、スタッフの負担が大きくなっています。また、ICUやSCUでは「新型コロナウイルス感染症疑い患者」に対応する場合があります。その際には感染防護用具をつけての精神的、肉体的負担の大きな業務となっております。「疑い患者」が検査の結果、陽性だった場合にはすぐに転棟せねばならず、通常業務に支障が生じています。そうした負担増に対して、1万5千円の一時金は、①の50万円や②の10万円に比して些少だと感じられるとのことでした。

また、HCUに応援に行った看護師等には50万円ではなく、1万5千円の支給となっているとの話を聞いております。応援に行った者で行っていない者が同額なのは納得しがたい、との声もありました。

今後も同様の補助金事業が行われる可能性もあります。その際の配分額につきまして、

今回の現場からの意見を参考にさせていただき、現場の隅々から感謝される病院運営を行っていただけるよう希望いたします。

また、今回の一時金ではありませんが、「新型コロナ対応手当」について、「疑い患者が検査の結果陰性となった場合には支払われないが、結果が確定するまでは〈新型コロナ感染症患者〉として対応しているため、〈疑い患者〉であっても負担が大きい」との声も受けました。これらの点につきまして、下記のとおり、今後の改善をご検討いただければ幸いです。

記

- 1) 今後、新型コロナ対応一時金を支給する場合には、現場の負担感に対応する配分額を慎重に検討し、金額差に対して不公平感が出ないように、配慮をお願いいたします。
- 2) 「新型コロナ対応手当」につきましては、「疑い患者」に対応した場合にも支給対象とすることを希望します。

以上